

# 宿泊人権学習「つばくろの家」

吉野川市立西麻植小学校

## 1 「つばくろの家」とは

「つばくろ」とは、暖かいところにすむ渡り鳥（つばめ）のことである。民家の軒下に巣を作ってひなを育てる。成長したあかつきには、仲間とともに仲よく南の国へ移動していく。嵐や強風の中を方向も誤らずに飛び続け、目的地へ到着する。このつばくろのように、困難に負けず、仲間と共に差別に打ち勝つ強い子どもになってほしいという強い願いをこめて、この名がつけられた。



1971年、地域の思いを受け、同和対象地区児童の2～3名が1つの班となって生徒指導を主としたねらいの宿泊訓練が始まった。その内容が充実したものであったので、隣接する地域の保護者からも「参加させたい。」という要望があがってきた。

1972年、近隣の2地区の子どもも加わることになる。これから徐々に参加を望む声は校区全域に広がりを見せるようになっていった。

1980年、全地域の児童に希望をとって行われるようになり、現在では、5・6年生全員が参加している。

## 2 「つばくろの家」への願い

少し昔、この地域では、雨の日も100メートルぐらい歩くにも傘がいらなんだよ。というのも、ここの地区は家と家の屋根がかさなっとってな、雨が落ちてこなんだよ。夏は風通しが悪いけん暑かった。裏の戸を開けたら、隣の家の部屋が見えるけん。ほなけん、隣ともさるまで行き来しよった。

こんな状態やったけん、一般（地区外）の子どもが遊びに来たって、家にはよう入れなんだ。第一、一般の子がここいらの子と遊びにくってことがほとんどなかった。皆ここいらの子と遊びよった。ここの子が他の地区に遊びに行く事もなかった。ほなけん、大人になっても他の地区に行くことはなかった。結婚も、ここいらの地区の人とばかりで、一般の人みたいに新田や栗島におっちゃんやおばちゃんがおる家は一軒もない。子どもやって、いとこはすぐ近くばかりだろ。私らは、これこそが“差別”じゃと思うとんじゃ。

ほなけん、つばくろの家で、一般地区の子と一つ屋根の下で一緒に寝起きすることが意義あることで、一生の思い出になると思うし、そういうことも期待しよんよ。

それに、うちの娘が差別を受けて悩んどった時に、誰の言葉が一番力づいたかって聞いたら、親でもなければ、先生でもなかったんよ。部落問題がわかった友だちが、「ほんなこと気にせられん。皆おんなじで。」って言うてくれたことが一番生きる勇気になったっていよったけん、つばくろの家やったことが間違いではなかったと思う。

そこいらのとこ、指導して下さる先生には分かってほしいんよな。先生には苦労かけるけど……。先生には転勤があるけん、私には転勤がないんよ。  
(地元のある方のお話から)

## 3 「つばくろの家」の意義



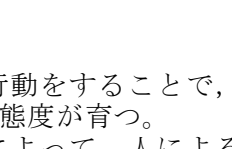
- 今年で47年目となる本校の伝統と言える行事である。長く続けられた理由は、地域の人々の「西麻植の子どもたちが、自分の人権や友達の人権を大切に、幸せになってほしい。」といった願いがあるからである。
- 地域の人のお話を聞くことにより、「西麻植の子どもたちの幸せを願う気持ち」をまず感じさせ、人権教育の根幹としたい。
- 子どもの頃に「つばくろの家」に参加した経験のある保護者や若者の話を聞くことにより、楽しく人権学習を進める中で、「自分の本音」を語る事が仲間づくりには必要なことであること、また、それができやすいのが「つばくろの家」のよさであることを理解させる。
- 「寝食を共にすること」により自主的な生活の時間を共有し、楽しい思い出とともに大人になっても「心のよりどころとしてのつばくろの家」を子どもの心に深く刻み込ませる。
- 秋には「自分の身近にあるいじめ」や「自分の身近の部落差別」について、自主的に本音で語りあえることを目指す。そのためには、担任を中心として聞く側の受け止め態勢を整え、「本音でしゃべってよかった」と将来にわたって後悔させない信頼関係を構築する。

## 4 「つばくろの家」の実際

- ねらい 自由と責任を重んじ、自主・自律の精神や基本的生活習慣を養うと共に、家庭的な温かい人間関係の中で、何事も話し合い、教師と児童、児童相互の信頼、親交を深め、相手の長所を認め合い、共に助け合える仲間づくりに努め、児童の社会的立場の自覚を深める。
- 実施場所 西麻植教育集会所
- 参加者 5・6年の児童
- 班編成 男女、学年を考慮して5～8名位の班
- 実施回数 年間2回
- 指導者 西麻植小学校教職員、地域の人、保護者
- 参加費 米一合、おやつ代

## 5 実際の活動

時刻	活動内容	活動内容
18:00	集合	みんなで誘い合わせて西麻植教育集会所にやってくる。 
18:00-18:10	つばくろの家の目的の確認	つばくろの家の誓いをみんなで読みあげ、活動全体を通して、仲間づくりや人権意識の高揚に努めることを確認する。 
18:10-18:20	人権学習会 意義指導	集会所に掲示してある人権学習会のパネルを見せ、児童の学習会の理解を図る。 
18:20-18:30	係活動	清掃班、炊事班に分かれて活動する。 
18:30-20:00	夕食準備 夕食 後始末	みんなで協力して夕食(カレーライス)の準備をする。残飯の始末も進めます。 
20:00-21:30	人権学習	①地域の人、保護者、教員から話を聞く。 ②話し合い ③学習後、感想文を書く。 
21:30-22:00	レクリエーション・おやつタイム	みんなでできることをして遊ぶ。 
22:00-22:20	就寝準備	歯磨き、着替え、寝具の準備をする。 
22:20	就寝	子どもたちにとっては一番仲間の絆が深まる時間？指導しないとなかなか眠らない。 

6:00-6:15	起床・整頓	洗顔、片付け等をする。 
6:15-6:25	清掃・感想	つばくろの家の感想を書く。家庭に帰り、家の人に話して感想を書いてもらう。 
6:30	解散 ラジオ体操 (夏休み)	楽しい思い出を胸に、眠い目をこすりながら家へと帰る。 

## 6 つばくろの家の成果

- 自分だけでなく友だちのことを考えた行動をすることで、助け合ったり、譲り合ったり、認め合ったりする態度が育つ。
- 自分の考えを述べ、友だちの意見を聞くことにより、人による考え方の違いを知る。そして、友だちの考えを認めながら、自分の考えをより深めることができる。
- 一晚、寝食を共にすることによって仲間意識が高まり、友だちのよさを新たに発見したり、友だち同士のつながりが増したりして、助け合い、支え合える仲間づくりにつながる。
- 基本的な生活習慣や集団生活の仕方が身に付く。

## 7 「つばくろの家」の誓い

つばくろの家の誓い

一 みんな仲よく、礼儀正しく、楽しい生活をしよう。

二 物を大切に使い、規則を守ろう。

三 働くことを喜び、最後まででなしとげよう。

四 自分だけのことを考えず、友だちのためにできるようにつとめよう。

五 美しい心をもとう。

